

アズマヒキガエル

成体になると12cmほどになり、メスの方がやや大きくなります。体色は変異がありますが、ほぼ茶褐色や黒褐色で、背中にはイボがあり、側面には白色や黒色の帯びの模様があります。鼓膜の上にある耳腺（じせん）と呼ばれる、イボから毒液を出します。皮膚が厚いため乾燥に強く、陸上での生活に適しています。また、後ろ脚が短いため、トノサマガエルのように素早く跳ねることが出来ません。

他のカエル類と同様に肉食性で、ミミズや昆虫類、サワガニなどを食べます。

海岸付近から山地までの広い範囲に生息しています。

繁殖期の2月から4月になると、池や湿地、田んぼなどの浅い止水に集まり、オスは「クッククッ…」と鳴きます。生み出された卵塊（らんかい）は、5m以上の長い紐状です。オタマジャクシは、6月頃になると変態し、陸上生活が可能になります。



富士市での現状

今回の調査では、富士常葉大学構内や丸火自然公園、ひのきの森などの山地の水辺で主に確認されました。

アズマヒキガエルを確認したメッシュ

